

# 明日 への 話題

## 星空は語る



公益財団法人 資本市場研究会  
理事長

はやし  
林

まさかず  
正和

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

さて、いきなりのんびりした話で恐縮ですが、昨年の秋、星空観察に南信のしらびそ高原に参りました。私は、山歩きをしていた頃は時々山小屋やテントから星空を仰ぐことはありましたが、それ以降はもう長い間ほとんどそうした機会はありませんでした。それがふと思い立って、南アルプスから中央アルプス、そして北アルプスまで見渡せ、かつ星空観察の著名なポイントである高原に出かけたというわけです。幸いに天候に恵まれ、久しぶりに満天の星に取り込まれ、その美しさ、壮大さに暫し浸っておりましたが、以前とはいささか異なる印象も受け、驚いたのです。それは、夜空をスーッと移動する人工衛星の数が大分増えたことです。考えてみれば当たり前ののですが、毎年多くの衛星が打ち上げられており、その結果、現在運用されている数は数千に及んでいるのでしょう。ただ、当然ながら明るい時所では見えず、暗い中美しい夜空を見て初めて現実に気づかされたのでした。

ところで我が国経済は、ご案内のように、長い停滞をようやく脱しつつあるように見受けられます。資本市場についても、政府、関係者の方々のご尽力もあって、長年の懸案であった「貯蓄から投資」もやっと動き出しましたし、資産運用業の一層の活性化に向けての動きも力強く進んでおります。東京株式市場も着実に改革を進め、成果をあげてきております。こうした市場を取り巻く好環境の下、これまで指摘されてきた幾つかの諸課題についても、時間はかかるうとも、改革、改善に向けて、関係者の皆様の取り組みを期待したいと思います。そしてその際には、安易な認識に基づいて結論を急ぐのではなく、変化してきているものごとの本当のところ、実態を把握したうえで、着実に一歩ずつでも進めることが、真の解決につながるのではないかと考えます。世の中の実態は大きく変わってきているところに疎くなっている私の反省です。

昨年は、我が国のみならず世界的にも大規模自然災害に見舞われ、また、紛争の激化、大規模化への不安も募ります。多くの国での選挙の結果、政治環境も激変しました。全体に不確実性の増したこうした時であるからこそ、私たちはこの機会に、国自体と経済の基礎体力を増強し、不測の事態に備えるとともに、国際的に貢献をしていく足場にもしたいものです。